令和 8 年度　東京都内湾水生生物調査　6 月稚魚調査　速報

●実施状況

令和 8 年 6 月 2 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温は 24.8～26.0℃、調査地点の風は南寄り、風速 3.0～5.1m であった。調査当日は大潮で、満潮は 4 時 57 分、干潮は 12 時 00 分であった（気象庁のデータ）。また、お台場海浜公園では赤潮が発生していた。

全地点において、マハゼ、ビリンゴ、ボラが出現した。森ヶ崎の鼻ではニシン科が非常に多く出現した。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
作業時刻	9:11-10:28	10:58-12:27	13:17-15:26
水温(℃)	23.3	22.2	24.6
塩分(-)	25.6	25.6	14.0
透視度(cm)	29.0	44.5	10.5
DO(mg/L)	14.6	6.6	6.5
DO飽和度(%)	199.0	88.7	84.5
波浪(m)	0.2	0.2	0.2
pH(-)	8.8	8.1	7.7
水の臭気	中海藻臭	無臭	無臭
備考	赤潮が発生していた。		

●主な出現種等　（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚
魚種（多い順[注]）	マハゼ(m)	ニシン科(m)	マハゼ(m)
	ビリンゴ(m)	マハゼ(c)	エドハゼ(c)
	ボラ(c)	エドハゼ(c)	ボラ(+)
	ニシン科(r)	ボラ(+)	チチブ属(r)
	クロダイ(r)	チクゼンハゼ(+)	フグ科(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(+)	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(G)
	エビジャコ属(+)	クロイサザアミ(m)	エビジャコ属(m)
	ドロクダムシ属(r)	エビジャコ属(m)	オフェリアゴカイ科(m)
備考	他にニッポンドロソコエビ、ワレカラ属等が採集された。	他にハゼ科、フグ科、ビリンゴ、ウキゴリ属、アキアミ等が採集された。	他にビリンゴ、ユビナガスジエビ、ウミグモ綱、ムロミスナウミナナフシ、コツブムシ科等が採集された。

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園　採取試料







水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

ニシン科（仔魚）



サッパ又はコノシロの仔魚。内湾や河口域に生息する。いずれも産卵期は春から初夏だが、サッパの方がやや遅い。ふ化した仔魚は内湾の干潟域等の浅所でも見られる。

マハゼ



河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、徐々に深場へと移動する。産卵期の冬から初夏に雄が河口付近の砂泥底に巣穴を掘り、その中に雌が産卵する。

クロダイ



東京湾全域に出現。幼魚期は夏秋は内湾や沿岸域に定着し、秋冬になると内湾周辺の深場で越冬する。産卵期には、浅い砂地のある入江や湾内外の磯場にて集団で産卵する。

ビリンゴ



マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける河口付近の干潟に多い。アナジャコ等の甲殻類の巣に産卵し、稚魚は成長するにつれて汽水から淡水域に移動する。産卵期は早春。

ボラ



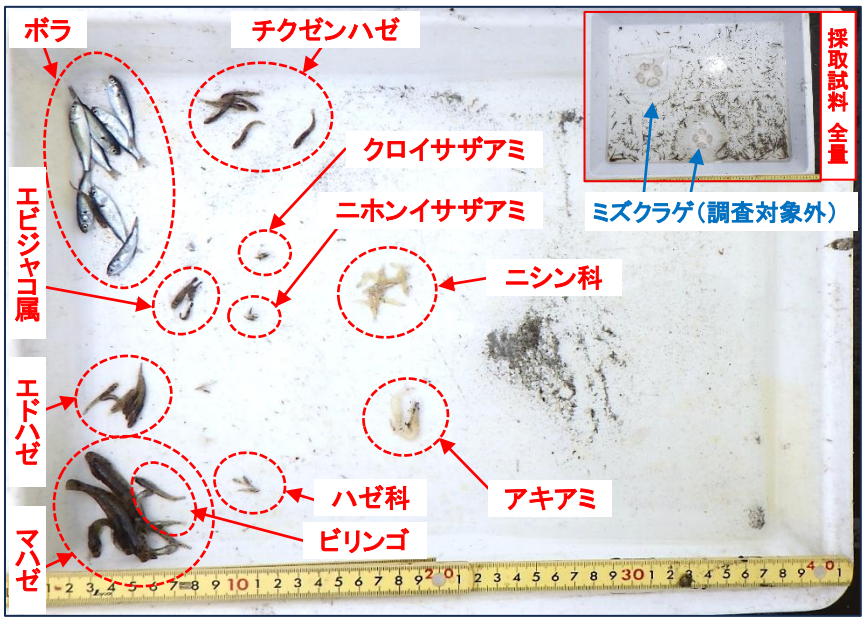
東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。コノシロ同様、成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。

エビジャコ属



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

森ヶ崎の鼻　採取試料



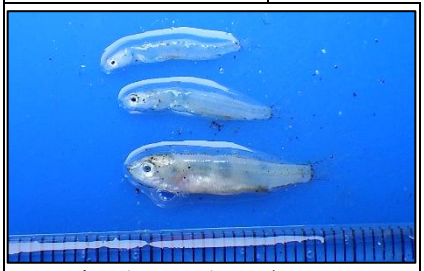




羽田空港北側にある干潟。干潮時でも周りは「海」に取り囲まれているため、岸から歩いて入ることはできない。

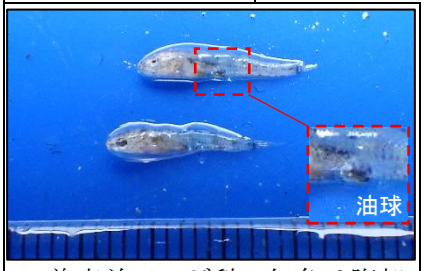
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛：1mm

ニシン科（仔魚）



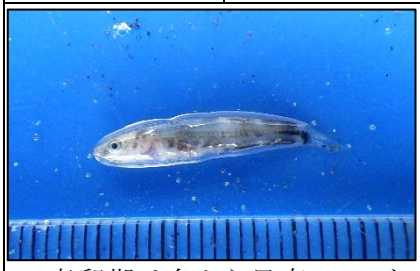
※解説はお台場海浜公園を参照。

ハゼ科（仔魚）



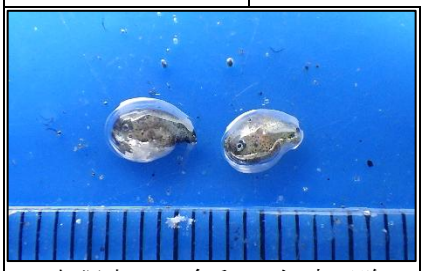
着底前のハゼ科の仔魚は腹部に浮力調整のための油球がある。6 月から 8 月にかけて多数出現するハゼ科仔魚はチチブ属の仔魚であることが多い。

ウキゴリ属



産卵期は冬から早春。アユと同じように仔稚魚は干潟で成長し、その後、河川を遡上する。河川中流から河口域で生活する。干潟域で見られる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの 2 種が混じっていることが多い。

フグ科（仔魚）

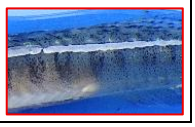


本調査では令和 5 年度以降、毎年フグ科の稚魚が採集されている。これまで、フグ科の魚種としてクサフグとトラフグが出現しているが、近年、クサフグは確認されていない。

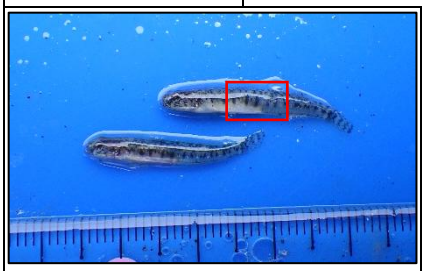
エドハゼ



湾奥の干潟域に生息し、主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家とするほか、早春には産卵場所として利用している。



チクゼンハゼ



河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似るが、体側に明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があるのが本種の特徴。

明瞭なトラ模様→



葛西人工渚　採取試料



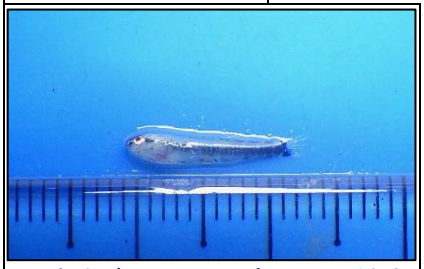




東京湾奥にある広大な人工干潟。
野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

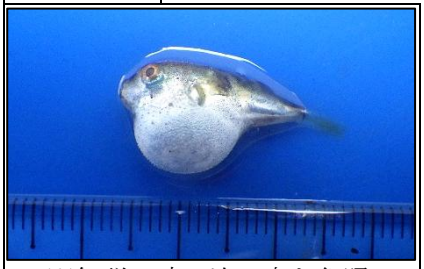
●主な出現種等　※写真のスケール1目盛:1mm

チチブ属(仔魚)



東京湾ではチチブ属は 4 種確認されている(チチブ、ヌマチチブ、アカオビシマハゼ、シモフリシマハゼ)。成魚は体側の縦縞や頭部の白斑の粗密等で区別されるが、稚魚は未発達のため見分けが難しい。春から夏に干潟域等で大量の仔魚が浮遊生活を送る。

フグ科



※解説は森ヶ崎の鼻を参照。

マハゼ



※解説はお台場海浜公園を参照。

ユビナガスジエビ



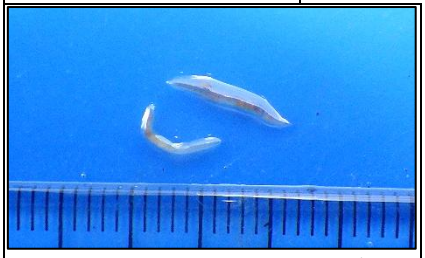
内湾域の転石場や護岸に多く生息する。体長 4 ㎝ほどのテナガエビ科の仲間。体全体に色素が分布し、生きている間は褐色に見える個体が多い。
今回、抱卵個体が採集された。

ムロミスナウミナナフシ



体長 2 ㎝ほどになる、フナムシに近い仲間。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

オフェリアゴカイ科



砂地の干潟に生息する多毛類。浅く砂に潜り、有機物を食べる。体の横側に黒い眼点が並ぶ。